

絆

K I Z U N A

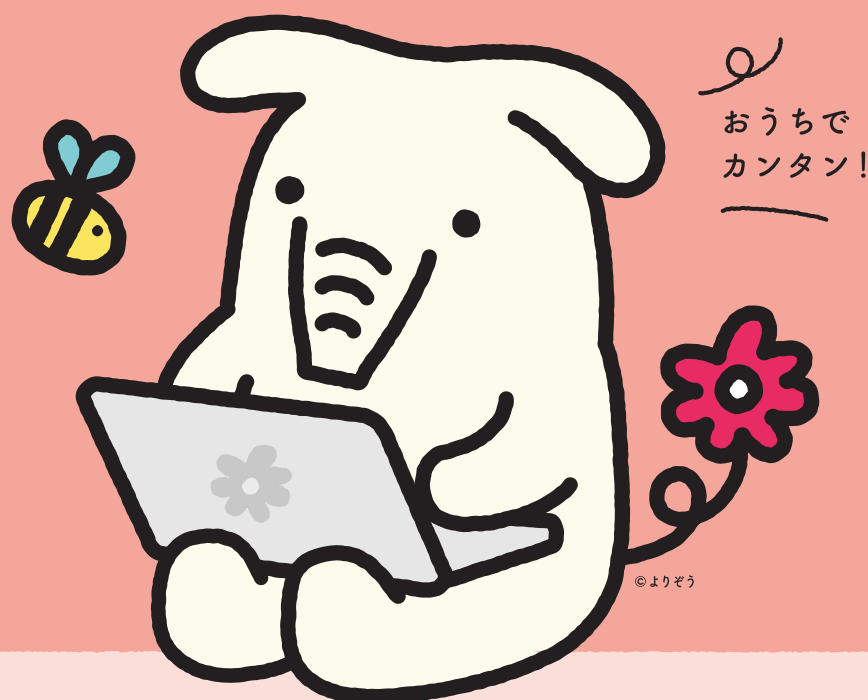
2021 OCTOBER

JAグループ青森 月刊広報誌 [898号]

10



口座振替が来店不要で ラクラクできちゃうぞう



Web口座振替受付 サービスの特徴



JA窓口への
来店不要。
Webで完結!



口座振替依頼書の
ご記入も不要!

即時口座振替 サービスの特徴



JAバンク口座から
キャッシュレス決済アプリへ
即時入金!



即時入金時の
手数料無料!

令和3年度の業務運営状況と新たなスタート

令和3年7月、東京オリンピックが始まり、それと同時にかつてない新型コロナウイルス（以下、「コロナ」という。）の爆発的な感染拡大も始まりました。オリンピック競技自体は世界トップレベルの強く、速く、美しいパフォーマンスを見ることができ、また、日本人選手の活躍に喜び、感動する場面も多々ありました。一方でコロナの感染者については、オリンピック開催期間やお盆期間の人の移動等による影響、国民の感染に対する危機感の低下等により、連日過去最多を更新する等、歯止めがかからない状況となってしまいました。

県内でもコロナ感染拡大により、飲食店やホテル等の営業停止が後を絶たず、各地域で断続的にクラスターが発生する等、予断を許さない状況が続いております。また、青森ねぶた祭をはじめ県内の夏祭りは昨年に引続き開催が見送られました。来年こそはコロナが収束し、安心安全な夏祭りが開催できることを切に願うものです。

さて、令和3年度の業務運営状況ですが、信用事業システム業務については、JAバンク青森県域戦略に沿った課題整理を行い、JASTEMシステムに関する各種情報把握に努めながら、適切な対応に取り組んでおります。また、管理経済事業システム業務については、「JAグループ青森情報・電算構想実施基本計画書（第5次）」に基づき、システムの機能強化にかかる開発・改修と安定稼働、公認会計士監査に対応したシステム改修、経済事業システムの開発・改修、新財務会計システムの開発等に取り組んでいるほか、情報セキュリティの強化と安定稼働、農業経営管理支援業務や営農ICT情報システムの開発と安定稼働に取り組んでおります。さらに、総合ネットワーク事業業務（信用事業、共済事業、管理経済事業）については、関係先と連携し円滑な運営に取り組んでおります。

話は変わりますが、令和2年度の検討事項でありました農協会館3階フロアの見直しに伴い、当社事務室を3階東側から3階西側へ移転することとなり、令和3年2月に改修工事を開始して以降順調に工事が進み、令和3年5月17日から新事務室での業務をスタートすることができました。JA、関係団体、関係各社のご協力に対し厚く御礼申し上げます。

最後に、令和3年度は次期中期計画（令和4年度～6年度）策定の年であります。次期3ヵ年の新たなスタートに向けて、JAの業務が円滑に遂行できるよう各関係先と連携し取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

株式会社青森県農協電算センター

絆 10 目 次 CONTENTS

メッセージ	1	経営の窓口	14
フラッシュ	2	JA青森県青協NEWS	15
インフォメーション	4	輝き	16
東北農政局通信あおもり	10	すすめ！SDGs!	16
組織農政通信	11	仲間	17
実践農業者支援	12		

フラッシュ

JA青森



支援強化で生産意欲減退阻止 管内全市町村へ支援要請(9/22)

JA青森は、2021年産米の概算金が大幅に下落したことを受け、同JA雪田徹組合長ら幹部が管内5市町村を訪問し、米農家に対する支援を要請した。このうち平内町役場では、雪田徹組合長が「町をあげていち早く農家支援のために立ち上がっていただき感謝申し上げる。行政にも何とかお力を貸していただきたい」と訴えた。船橋茂久町長は「同町は農水産業が基幹産業で農業従事者が多い。他市町村の支援策も考慮しながら助成を検討していく」と述べた。



JAごしょつがる

最先端コンバイン／地域の活性化目指す(9/13)

JAごしょつがる管内にある、有限会社豊心ファームの代表取締役境谷一智さんは、このたびJAの農業近代化資金を活用して、GPS自動運転アシスト機能付コンバインを購入した。同コンバインは、2019年に販売開始され、五所川原管内では初めて納入となる。

境谷さんは「初期投資は必要だが、コンバインの自動化にはロマンがあり、地域農業の活気につながる」と話す。同機種は、自ら合理的な刈取ルートやターン、排出を計算して走行するため、労働時間軽減とコスト削減に期待している。

今年も米一等米格付け 米の初検査(9/28)

JA相馬村はライスセンター倉庫で、JAの大場勉組合長をはじめ、ライスロマンクラブや全農あおもり関係者などが見守る中、今年産米の初検査を行い「青天の霹靂」に全量1等が付けられた。

大場組合長は「現在厳しい米情勢ではあるが、今後新設されるライスセンターの建設により当管内の稲作を絶やさず、満足して利用して頂ける様に努めていきたい」と述べた。

JAつがるにしきた



全量1等スタート 「青天の霹靂」初検査(9/14)

JAつがるにしきたは、つがる白神支店1号倉庫で2021年産米の初検査を行い、JA職員ら30人が見守る中、全量1等に格付けされ好スタートを切った。この日検査したのは、鰯ヶ沢町の橋本康伸さんが6日に収穫し、乾燥調整した「青天の霹靂」32俵(1俵60kg)。泉谷利幸組合長は「全量1等となり非常に喜んでいる。コロナ禍で厳しい状況が続いているが、良食味をPRして消費拡大に努めたい」と話した。

JAつがる弘前



今年産リンゴ初売り(9/3)

JAつがる弘前が出荷した2021年産早生リンゴ「サンつがる」「きおう」「未希ライフ」の初売りが9月3日、東京都大田市場の東京青果と、大阪市場の大阪青果で行われた。「特選」の最高値が32玉入りで、東京では1ケース20万円と前年同額、大阪は同30万円で前年より25,000円高い価格でスタートを切った。仲卸業者各社からは、「着色・食味ともに申し分ない」と高い評価を得た。



JA相馬村



JA 津軽みらい

正しい積み方で安全性確保（9／1）

JA 津軽みらいは、各地区の米低温倉庫で米袋の荷崩れを防ぐための積み付け講習会を開いた。各地区の米摺業者とJA関係者が参加し、米袋の安全な積み付け方法を確認した。平賀基幹支店管内の平川低温倉庫で開いた講習会には、50人が参加。流通会社の社員が講師を務め、積み付け方法や注意事項などを説明。米袋をパレットへ積み付ける作業を実演し、参加者はパレットの向きや米袋を積み付ける順序など確認した。



JA 十和田おいらせ

米町に支援要請 再生産意欲維持のため支援要請（9／22）

JA 十和田おいらせは、2021年産米の概算金の大幅な下落を受けて、十和田市に稲作農家の経営安定対策に関する要請書を提出し、再生産に向けた対策をお願いした。十和田市役所には畠山一男組合長と常勤役員らが訪問し、小山田久市長に今年の生産資材等の支払いや次期作にむけての支援策の必要性、JAとしての独自の支援策を検討していることを伝えた。小山田市長は「コロナによる経済対策に加え、農家救済への対策も迅速に検討する」と述べた。



JA ゆうき青森

秋ゴボウ 収穫・出荷最盛期に向けて目揃い会開催（9／15）

JA ゆうき青森野菜振興会ごぼう部会は、収穫・出荷の最盛期を前に目揃い会を開き、参加した生産者らが出荷規格等の確認を行った。萌出守ごぼう部会長は「収穫に向けて管理してきたゴボウが高品質なものとして出荷できるよう、生産者1人1人が選別の際に細心の注意を払って作業を行ってほしい」と話した。21年産は生産者151人が約150haに作付し、348.2トンの収穫量を見込んでいる。



JA おいらせ

米農家支援を行政へ要請（9／16）

JA おいらせは、六戸町へ米農家の再生産に向けた支援対策等を要請した。2021年産米の概算金の大幅下落を受け、町に対策の検討を求めた。吉田町長は「採算割れするような状況で、経営が成り立たない。周辺行政がどうとらえているか意見を聞き相談して、統一的な意見を出したい」と述べた。沖澤繁弥組合長は「高齢の経営者が多く、離農につながりかねない。対策を検討していただけるということでありありがたい」と述べた。JAは三沢市にも、支援を要請する予定。



JA 八戸

JAのこども共済抽選キャンペーン（8／30）

JA 共済では、子育て世代へ将来の備えと安心をお届けしようと、2021年4月より「JAのこども共済お見知りキャンペーン」を実施しており、JA本店で第1期の抽選会が行なわれ、山美喜正組合長ほか常勤役員3人がB賞・C賞の抽選をし、10人が当選した。キャンペーンは、第4期（22年3月31日）まで実施し、LAや窓口による紹介を行っていくこととしている。

概算金大幅下落に対する緊急要請

ＪＡ青森中央会の雪田徹会長職務代行者と青森県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は９月１６日、青森市で自民党県連会長の江渡聡徳衆議院議員をはじめ県選出国會議員４人に、２０２１年産米の概算金大幅下落に係る緊急要請を行った。稲作農家への支援対策や米の需給改善を求めた。

要請内容は①２１年産米の概算金大幅下落による減収に加え、肥料等の生産資材価格も高騰していることから、稲作農家への支援措置等再生産に向けた対策を講ずること②セーフティネットである米・畑作物の収入減少影響緩和対策交付金（ナラシ対策）の申請期限の延長、さらには米概算金大幅下落による資金繰り等に対応するための早期発動等、稲作農家の経営維持に向けた対策を講ずること③新型コロナウイルスの影響等で生じた２０年産米過剰在庫については、備蓄米の買入枠拡大等の市場隔離を実施する等の需給改善対策を講ずること一などの５項目。

雪田徹会長職務代行者（委員長）の要請に対し、江渡議員は「米の概算金については大変憂慮している。青森県の農業を守るために、与党も野党も関係なく協力していきたい」と述べた。

本県においては、８月末現在の作付面積は、２０年産に比べ約４,１００ｈａ（１０.６％）の減少とかつてない規模での作付転換が実施される見込み。しかし、２１年産の概算金目安は厳しい販売状況を反映し、「つがるロマン」で１俵あたり８,２００円、「まっしぐら」で８,０００円となり、２０年産から３,４００円の過去最大の下落となった。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う人流の制限



▲江渡議員（左から２人目）らに要請書を手渡す雪田会長職務代行者（委員長）㊥

措置および飲食店への規制で、業務用米の需要は回復の兆しが見えておらず、２０年産米の大幅な過剰在庫が米の価格に大きな影響を与える結果となっている。

ＪＡグループ青森として初の試み こども宅食おすそわけ便

ＪＡグループ青森と青森県農協農政対策委員会は、県社会福祉協議会を通じて、「こども宅食おすそわけ便」の利用世帯に県産米「まっしぐら」約８㌧を贈呈した。食支援を通じて、県産農畜産物への理解醸成に取り組んでいる。

青森、弘前、五所川原、三沢、十和田、八戸の６地区を対象に、１０月までに県内６０団体を通じて約４,０００世帯に届く予定である。

９月２６日、青森市の社会福祉法人義栄会が運営する「こども食堂じょいん」で贈呈式を開き、ＪＡ青森中央会の会長職務代行者で、青森県農協農政対策委員会の雪田徹委員長が、義栄会の小畑敦理事長に「まっしぐら」を寄贈。県社会福祉協議会の高杉金之助会長は雪田委員長に感謝状を贈った。

雪田委員長は利用者に向けて「コロナ禍の中だが、子どもたちにはお米を食べて健康でいて欲しい」、小畑理事長は「社会貢献の一環として、今回の取り組みが地域の方々に結びついてほしい」とそれぞれ願いを述べた。

「こども宅食おすそわけ便」は、県社会福祉協議会が青森県内各地域の社会福祉法人と実施しており、経済的に困窮している世帯やひとり親世帯に食品を提供している。この日は青森市内９カ所



▲小畑理事長㊦から感謝状を贈呈される雪田委員長㊥

で、お米の寄贈を行った。

「こども食堂じょいん」では、同日10時から2回に分けて県産米の他、コープあおもりから袋詰めされた食品などを利用者に手渡していた。



▲利用者にお米を手渡す雪田委員長

GAP取得への挑戦 オンラインで生徒による意見交換

青森県立柏木農業高校は9月28日、ウェブ会議システム「Zoom」で、グローバルGAPの実践と認証取得について意見交換を行った。北海道、愛知県、京都府などGAP取得に取り組んでいる農業高校など10校から生徒が参加した。

「G.A.Pの日」（9月16日）と農林水産省「あふの環プロジェクト サステナウィーク」に合わせて、生徒が日頃の学習成果を伝えることが目的。9月16日、参加各校の活動状況を動画により紹介し、2回目となる今回は各校のGAP取得における追加説明や質問を行った。生徒は互いに活発な意見のやりとりをした。

同校生徒は2020年にGAP取得米の「柏農浪漫」の審査会の様子や生産過程の事例、国連のSDGs（持続可能な開発目標）に向けた取り組みでは、新聞紙で制作したエコバックを販売実習で活用した事例の紹介を行った。

同校の高野浩輝校長は「GAPの取得でリスク管理を知り農家へのコンサルができるだけではなく、販売実習が可能となる。GAP取得への挑戦過程で、生徒が『変容』している」と期待を述べた。生徒らは「他校での取り組みや活動状況を確認することができ、GAPの魅力を再確認できた」と述べた。

同校は19年にリンゴで、20年には新たに米でグローバルGAPの認証を取得しており、今年はリンゴと米で継続認証をめざしている。意見交換会の後には、弘前大学や一般社団法人GAP普及推

進機構の関係者から、生徒への激励や意見交換会における議論の改善ポイントの振り返りがあった。



▲ウェブ会議で意見を交換する柏農生（青森県平川市で）

行事（10／10～11／10）

10月

- 12日 資産査定担当部課長会議（県農協会館）
- 13日 県参協定例会（県農協会館）
- 14～15日 農協内部監査士検定試験準備研修会（WEB併催）（教育研修所）
- 19日 JA広報担当者研修会（県農協会館）
- 19日 日本農業新聞通信員研修会・会議（県農協会館）
- 21日 県下JA女性部長・支部長・エルダー代表者・事務局合同会議（県農協会館）
- 23日 認証初級試験（県農協会館）
- 29日 JA全国大会（東京都）

11月

- 2日 女性リーダー育成研修会（県農協会館）
- 4～5日 監事監査（県農協会館）
- 5日 県女性協定例理事会（県農協会館）
- 6日 認証中級試験（県農協会館）
- 9日 定例理事会（県農協会館）
- 9～10日 認証営農指導員準備研修会（教育研修所）
- 9日 内部監査担当部課長会議（アラスカ会館）
- 10日 県参協定例会（県農協会館）

JAカードのお申し込みは来店不要のWEB申込がおすすめ

JAバンクでは、JAバンク口座をお持ちのお客様を対象にJAカードのWEB申込を開始した。

これまでは新規に口座を開設するお客様のみWEB申込が可能となっていたが、2021年10月から、既にJAバンクをご利用いただいているお客様も来店不要でJAカードを申込むことができる。

申込みできるJAカード

JAカード単体型(クレジットカード単機能型)
※キャッシュカード一体型を希望する方は、JA窓口での手続きが必要となります。

サービス利用可能時間

【JAカード入会申込み】

24時間365日(メンテナンス時間を除く)

【引落口座登録】

平日 8:00~20:00

なお、JAに口座をお持ちでないお客様は、これまでどおりJAバンクメールオーダーシステムからJAカード(キャッシュカード一体型)を申込むことが可能。

WEBの申込フォームに必要事項を入力すれば、一週間程度で登録住所あてに申込書類が届き、申込書類の印字内容等を確認し返送するだけで手続は完了。口座開設とJAカードの申込みを同時に行うことができる。

WEBでの申込みはこちらから。

JAバンク口座を
お持ちの方



JAバンク口座を
お持ちでない方



©よりぞう

JAバンクの口座から『メルペイ』への即時チャージが可能に！

JAバンクでは、2021年9月より、「メルペイ」との連携を開始した。

メルペイは株式会社メルペイが運営するスマートフォンアプリ「メルカリ」の決済サービスで、

メルペイにJAバンクの口座を登録すれば、リアルタイムで登録口座からメルペイの残高チャージが可能。メルカリ内での買い物やコンビニ等の全国加盟店での支払いで使うことができる。

ご利用は普通貯金口座のキャッシュカードをお持ちのお客様が対象で、利用手数料はもちろん無料。

JAバンクでは今後も提携先を順次拡大し、サービスの利便性向上を図っていく。

詳しいサービス内容・ご利用方法はJAバンクHPまで。



サービス利用可能時間

【振替口座登録・解除】

平日 8:00~20:00

【チャージ】

平日・土曜・祝日 0:40~23:40

日曜 6:30~23:40

※臨時のメンテナンス等により、ご利用いただけない場合があります。

行事 (10/10~11/10)

農林中央金庫

10月

- 12日 第二種証券外務員・内部管理責任者資格試験(県農協会館)
- 14日 JAバンク青森運営協議会専門委員会(県農協会館)
- 18~19日 JAバンク青森アカデミー第6期「管理職コース」第1部(アップルパレス青森)
- 24日 銀行業務検定試験(各会場)
- 26~27日 ライフイベントセールスリーダー養成講座②(県農協会館)

11月

- 8日 窓口年金推進研修(県農協会館)
- 9日 青森県JA信用担当部課長会議(県農協会館)

農協電算センター

10月

- 19日 臨時株主総会(県農協会館)
- 19日 臨時取締役会(県農協会館)

青森やさいオンラインイベント

JA全農あおもりは8月31日のやさいの日に合わせて、「青森やさいオンラインイベント」を開いた。インターネット動画サイト YOUTUBE「JA全農あおもりチャンネル」にて、1時間のライブ配信を行ったもの。MCにダンス&ボーカルユニット「RINGOMUSUME」の王林さんとジョナゴールドさんを迎え、県内の生産者と青森いきいきやさいレディとともに県産やさいをPRした。

県産やさいの紹介のほか、質問コーナーやゲーム対決、やさいクッキングなどの企画を盛り込み、視聴者が楽しめる内容に。やさいクッキングでは「ながいもつけだれそうめん」や「夏やさいのホットプレートで焼きチーズカレー」などの簡単レシピを紹介し、MCの2人も調理と試食を楽しんでいた。

また、配信視聴者限定で「青森県産やさい詰合せセット」が抽選で50人に当たるプレゼントキャンペーンでは、106名の応募があった。

全農あおもりの担当者は「多くの人に視聴いただき、県産やさいの認知度向上に繋がったと感じる。レシピはSNSでも発信するので、お家でも活用いただきたい」と話した。



▲県産やさいをPRする生産者・沼田泰昭さん（JAおいらせ）㊦と工藤恒太郎さん（JAつがるにきた）㊦

青森県にんにく共進会

JA全農あおもりは9月2日、六戸町の青森県産業技術センター野菜研究所で「2021年度青森県にんにく共進会」の審査を行った。最優秀賞に熊

野雅人さん（JA十和田おいらせ）、優秀賞に金澤幹雄さん（JA八戸）がそれぞれ選ばれた。熊野さんには農林水産大臣賞、金澤さんには県知事賞が授与される。

日本一のにんにく産地の維持・拡大に向けて、栽培技術のレベルアップと高品質安定生産の推進を目的として毎年行っているもの。

県内8JAから100点が出品され、全体の大小や形状、乾燥や表皮の状態などを競った。

表彰式は2022年1月に行われる。

最優秀賞、優秀賞以外の入賞者は次の通り（かっこ内はJA名）

◇優良賞▽立崎洋史（十和田おいらせ）▽豊川誠人（同）▽一戸茂（おいらせ）▽長根淳一（同）▽木野幸助（同）



▲審査する関係者ら

「あなたが選ぶ青森県産食材を使ったお料理レシピNo.1決定戦第1弾」抽選会

JA全農あおもりは9月13日、青森市の県農協会館で「あなたが選ぶ青森県産食材を使ったお料理レシピNo.1決定戦第1弾」のプレゼント抽選会を開いた。8月1日から9月12日までホームページで展開したもの。応募者138名の中から、当選者を決定した。

1番作ってみたいレシピの第1位は「県産大根のミルフィーユ角煮」。作り方は「大根スライスを豚バラで巻き、片栗粉をまぶしフライパンで焼く。調味料を加え煮込んだらできあがり」というもので、大根を肉で巻くことでボリュームを感じながらヘルシーに仕上がる嬉しい一皿だ。1位の

レシピを応募した消費者からは「大根がさっぱりとして美味しい」「大葉も巻いてアレンジしてみた」などのコメントが寄せられた。

抽選した全農あおもりの笹森俊充副本部長は「10月からの第2弾にも、お家時間を活用して応募して欲しい」と話した。

キャンペーンは、県産食材を使用した6種類のレシピの中から1番作ってみたいものを選んで応募すると、チャンス①として抽選で10名様に「青森いきいきやさいセット」が当たる。さらにチャンス②として、応募したレシピを参考に実際に料理を作り写真・感想を応募すると抽選で10名様に「あおもり和牛焼肉用カルビ500g²」が当たるWチャンス企画。



▲当選者を決める笹森副本部長

「牛乳ごっくんキャンペーン第2弾」抽選会

J A全農あもりと青森県牛乳普及協会は9月10日、8月に展開した「牛乳ごっくんキャンペーン第2弾」のプレゼント抽選会を青森市の県農協



▲牛乳ごっくんキャンペーン第2弾抽選会

会館で開いた。合計2393通の応募の中から、当選者300人を決定した。

当選者には賞品として、津軽びいどろペアグラスや飲むヨーグルト詰合せセットなどをプレゼントする。

全農あもり畜産酪農部の長内敏也部長は「今年度は4回開催を予定しており、第3弾は10月開催予定。安全・安心な県産牛乳をたくさん飲んで応募して欲しい」と話した。

～お知らせ～

土壤分析センターおよび東青地域資材配送センターを移転しました。

名称	土壤分析センター	東青地域資材配送センター
住所	〒038-1311 青森市浪岡大字浪岡字細田49番地 J A青森浪岡営農支援センター敷地内	
電話・FAX	(017) 729-8641 (017) 762-1078	(0172) 55-0633 (0172) 55-0634

※電話・FAX番号は、変更ありません。



▲新事務所

行事 (10/10～11/10)

- 10月
29日 J A葬祭 やすらぎホール黒石
竣工式 (黒石市)
- 11月
9日 運営委員会 (県農協会館)

令和3年度JA共済青森県小・中学生 第65回書道コンクール・第44回交通安全 ポスターコンクール審査会の開催

JA共済連青森は、令和3年9月25日（土）青森県農協会館において、令和3年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール審査会を開催した。

両コンクールは、共済事業の理念である相互扶助と思いやりの精神を、次世代を担う小・中学生へ伝えていくとともに児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に「書道コンクール」を、また、児童・生徒の図画工作・美術教育の高揚を図り交通安全思想を幅広く社会に訴えることを目的に「交通安全ポスターコンクール」を開催しており、地域貢献活動（文化支援活動）の一つとなっている。

書道コンクールは昭和32年度にスタートし今年度で65回、交通安全ポスターコンクールは昭和53年度からスタートし今年度で44回となり、質、応募点数ともに県内屈指のコンクールとして高い評価をいただいている。

今年度の応募作品は、書道が353校から、9,910点、交通安全ポスターは139校から、686点の作品の応募があった。

当日は、書道・交通安全ポスターの審査員各5名が会場に集まり、書道は鎌田雨溪審査員長、交通安全ポスターは宮本益衛審査員長を中心に審査が行われた。

初めにJA共済連青森福士本部長から挨拶があり、次に審査する際の基本方針や選出点数などを確認し厳選な審査が開始された。

各審査委員の厳選なる審査の結果、書道半紙・条幅の部および交通安全ポスターの部あわせて、最優秀賞27点、特選27点、準特選27点、奨励賞81点が選出された。各部門における最優秀賞を受賞した作品は県代表として全国コンクールへ出展される。

10月28日には、各部門の「最優秀賞」受賞者と「優秀学校賞」受賞校代表者を招いて、青森県農協会館で表彰式を行う予定である。

また、11月6日（土）、7日（日）には青森県観光物産館アスパム、13日（土）、14日（日）にはさくらの百貨店弘前店、20日（土）、21日（日）にはイオンモール下田で書道・交通安全ポスターコンクールの入賞作品展示会を行う予定である。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、全国コンクールが中止となったが、今年度は開催予定である。昨年より多くの作品が

集まり、新型コロナウイルス感染症を吹き飛ばすような、生き生きとした力強い作品が数多く寄せられた。



▲書道の審査風景



▲交通安全ポスターの審査風景

行事（10／10～11／10）

10月

- 10日 JA共済交通安全フェスティバル（道の駅なみおか）
- 12日 共済事業担当常勤理事会議（ホテル青森）
- 13日 共済税務研修会【個人編】（県農協会館）
- 14日 共済税務研修会【法人編】（県農協会館）
- 第3回JA共済さすなの青い森プロジェクト（平内町）
- 15日 JA自動車契約担当審査員有資格者研修会（県農協会館）
- 28日 書道・交通安全ポスターコンクール表彰式（県農協会館）

11月

- 4日 生命共済JA審査員有資格者研修会【2回目】（県農協会館）
- 6～7日 書道・交通安全ポスターコンクール展示会（青森県観光物産館アスパム）
- 9日 運営委員会（県農協会館）
- 10日 JA共済ヘルスアップ講座（プラザリユウ五所川原）
- 建物共済JA審査員有資格者研修会【2回目】（県農協会館）

「みどりの食料システム戦略」について

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

我が国の食料・農林水産業は、大規模自然災害・地球温暖化、生産者の減少等の生産基盤の脆弱化・地域コミュニティの衰退、新型コロナを契機とした生産・消費の変化などの政策課題に直面しており、将来にわたって食料の安定供給を図るためには、災害や温暖化に強く、生産者の減少やポストコロナも見据えた農林水産行政を推進していく必要があります。

このような中、健康な食生活や持続的な生産・消費の活発化や ESG 投資市場の拡大に加え、諸外国でも環境や健康に関する戦略を策定するなどの動きが見られます。今後、このような SDGs や環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、我が国の食料・農林水産業においてもこれらに的確に対応し、持続可能な食料システムを構築することが急務となっています。

このため、農林水産省では、令和3年5月に食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

みどりの食料システム戦略（概要）

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した

輸入原材料調達の実現を目指す

- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマダリ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

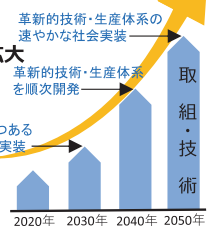
戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。
地産地消費エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



ゼロエミッション
持続的発展



期待される効果

経済 持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会 国民の豊かな食生活
地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境 将来にわたり安心して
暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

詳しくは
こちら

みどりの食料システム戦略

検索

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>



脱炭素社会の実現、青森県の農林水産業の持続的発展に向け、皆様の“知恵と力”をお貸しください。

組 織 農 政 通 信

農業高校生にＪＡ・農業理解をすすめる

１．良好な関係性をつうじて

地域に根差し、組織（ＪＡ）が地域社会の一員として認知されるため、「どのような考え方のもと」「どのような取組みを進めているのか」「どのような状況なのか」を正確にわかりやすく伝え、理解してもらえるよう取組む必要がある。

このためには、さまざまなコミュニケーション活動を通じ良好な関係性を築くことが重要である。

２．農業高校生へアピール

県農協農政対策委員会とＪＡ青森中央会は、次世代（小・中学生・高校生等）に対する農業理解をすすめるため、６月下旬、三本木農業（恵拓）高等学校での出前授業と同校によるＪＡ十和田おいらせでの施設見学を実施した。

（１）出前授業（令和３年６月２５日）

ＪＡへの施設見学を前に、あらかじめＪＡの概要把握のための出前授業を実施した。高校生が利用することが少ないＪＡ、協同組合の意義・仕事内容などについて説明。またＪＡグループで取組みを進めるＳＤＧｓについては「ＳＤＧｓかるた」を活用し楽しむ授業を行った。

（２）ＪＡ十和田おいらせでの施設見学（令和３年６月２９日）

施設見学では、農業技術センターや十和田やさいセンター、産直施設「かだあ〜れ」など５カ所を訪れ、ＪＡ担当者から各施設の役割や野菜の集荷から出荷までの流れなどについて説明を受けた。

本店会議室ではＪＡが取組むブランド化に関する特別講義や農畜産物の販売戦略について学んだ。また年齢の近い若手職員との意見交換会では、入組から現在に至る職業人としての心構えなど学び、生の声を聞くことで進路選択の参考としていた。

（１）出前授業の様子



（２）施設見学



かるたを活用してSDGsをまなぶ ①やさいセンターの見学

②「かだあ〜れ」での集合写真 ③若手職員との意見交換会

３．今、なぜ取組むのか？

農業高校教諭とＪＡ青森中央会との研究会をきっかけに、ＪＡと農業高校は共に農業を通じて地域に密着した活動を行っている一方で、互いに実態やどのような活動を行っているのか知らないことが多かった。また生徒は、以前より非農家出身者も多くなり、農業・ＪＡが縁遠い存在ですらあった。本活動に取組むにあたり、互いにどのようなことを求めるのかヒアリングし、右図のとおり整理した。

ＪＡでは、近年、求人募集をしても募集人数に届きにくい状況にあることから、就職

希望者の増加（選択肢）につなげ、継続的な取組みからＪＡのＰＲにつなげたいとする要望が挙げられた。

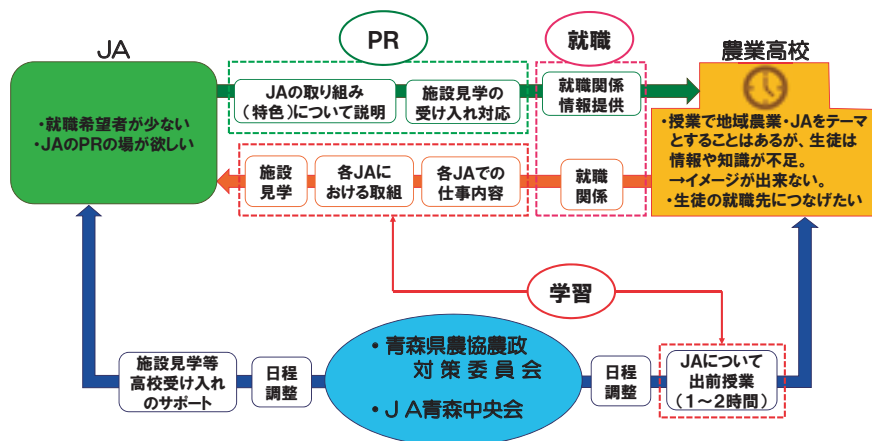
また、農業高校では授業でＪＡについて取り上げてもイメージすらできない生徒もあるほか、教員もＪＡの知識が乏しいことから、ＪＡについて学ぶ場と、生徒が卒業して社会人として働く環境を体感してもらいたいとの要望があった。こうした背景から、今回の取組みにつながった。

４．良いことは広げよう

上記３．の状況は、各地においても想定されるものと考えられる。

このため今後、県農協農政対策委員会、ＪＡ青森中央会は連携し、県内各ＪＡと高等学校等での実施を呼びかけ、次世代の理解・育成を通じた地域農業の発展に取組みをすすめていく。

（中央会 農業対策部）



実践 農業者支援

新規就農支援体制強化について

今回は、新規就農者支援の現状と親元就農における今後進むべき方向性について取り上げる。

1. 青森県内での新規就農者の状況

青森県構造政策課が今年8月に公表した「令和2年度青森県の新規就農状況について」によると、新規就農者の数は増加傾向にある。新規学卒者は減少傾向にあるが、他産業者からの就農者は年々増加している。特に非農家出身者は年々増加傾向にある。これは法人への就農者が増加していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により県内の有効求人倍率が低下し、農業分野の求人が注目されつつあるものと推測される。

一方、資料にはないものの平成7年から平成27年での農業就業人口の推移をみると20年間で約65千人減少しており、単純計算では年間約3千人がリタイアしている。このような状況が続くと産地の維持はもとより、農家の持つ技術や伝統が引き継がれないまま失われる可能性がある。

青森県における年度別新規就農者数

(単位：人)

形態別	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	対前年度比 (R2/R元)	H28~R2の 5か年平均(A)	過去5年対比 (R2/A)
総計	190	267	258	296	263	246	277	256	292	303	104%	275	110%
新規学卒者	52	83	63	71	72	59	72	51	65	55	85%	60	91%
他産業者からの就農者	138	184	195	225	191	187	205	205	227	248	109%	214	116%
農家出身者(注1)	98	137	125	144	98	122	106	94	118	100	85%	108	93%
非農家出身者(注2)	40	47	70	81	93	65	99	111	109	148	136%	106	139%

2. 新規就農者の区分

新規就農者とは、「新規自営農業就農者」、「新規雇用就農者」、「新規参入者」の3者をまとめた総称とされている。

(1) 新規自営農業就農者とは

家族経営体の世帯員で、他の仕事から自営農業への従事が主になった者。
(主に家族経営の継承である親元就農等)

(2) 新規雇用就農者とは

法人等に雇用されることにより、農業に従事することとなった者。

(3) 新規参入者とは

土地や資金を独自に調達し(相続・贈与等で親の農地を譲り受けた場合を除く)、新たに農業経営を開始した経営の責任者および共同経営者。(第三者承継を含む)

3. 本会としての新規就農者支援

本会では、これまで新規就農者支援について、次の内容に取り組んできた。

(1) 新規就農者支援パッケージ

募集から定着までの支援体系である「県版新規就農者支援パッケージ」を作成した。また、支援パッケージをモデルJ Aの実態に合わせ、実務的な支援内容に修正するとともに、新規就農希望者が取り組み易い作物に特化した支援内容を織り込んだ「J A版新規就農者支援パッケージ」の策定を支援した。現在、モデル以外のJ Aに対しても策定支援を実施している。

(2) 第三者承継

弘前大学と共同調査・研究を実施し、J A青森浪岡地区りんご部会を主体とした「J A青森浪岡地区新規就農受入協議会」の設立を支援した。当協議会では、りんご栽培を目指す新規就農希望者を研修生として受入れ、協議会会員の園地での農業研修を通じて栽培技術を伝承するとともに、園地や農業機械等の経営資源を含めた経営移譲に向けた活動を進めている。

また、当協議会での実例等をもとに、希望するJ Aへ横展開を予定している。

4. 親元就農が進まない想定される要因

親元就農とは、親の資産や技術を含めた農業経営を引き継ぐ事であるため、何より重要となるのが親子間での話し合いである。しかし、次のような理由により、建設的な話し合いに辿り着けていないケースが多い。

- (1) 親元就農をすると決めたが詳細な話を後回しにしている。
- (2) 親と子の目指す経営の方向性等が違う。
- (3) 親子間のプライドにより話しづらい。
- (4) 親子共に将来への不安を抱えている。

このような理由から、話し合いが進んでいないと考えられるが、すべてに共通して言える事が、「今」が大切であるということである。

子供が半人前ならば農業経営を一人で行える立派な農業者に「今」から教えるしかなく、引き継いでほしい伝統や技術も「今」話し合っただけで伝えるしか方法はない。

いずれにしても、農家である親が現役である「今」でなければ親元就農を実践することはできない。

5. J Aが取り組むべき内容

親元就農にあたっては現状の農業経営について、伝達や話し合いが必須であり、特にJ Aは親子間での話し合いの時には緩衝材になる必要があり、次の内容に取り組む必要がある。

- (1) 親子に親元就農とは何かを知ってもらう。
親元就農とは何か、具体的には何を引き継ぐのか、そのメリットは何なのかを説明する。
- (2) 経営実態の把握について支援する。
話し合いをすすめるうえで、引き継ぎ資産や経営実態の把握が重要となるが、引き継ぐ資産の中でも資産承継（目に見えるもの）を明確化することが非常に重要である。
主な内容としては、農地や農業機械、預貯金や共済の加入状況等を把握する必要がある。
- (3) 事業承継タスクの整理を支援する。
承継には把握した農地や農業機械、預貯金等以外にも、目に見えない技術や地域での人間関係等がある。そのため、目に見えない承継の内容についても把握したうえで、承継するためには子は何をすべきか検討する。また、J Aはその検討にあたり相談、助言を行う。
- (4) 話し合いのサポート
親子二人で話しても、理想論や感情的になってしまうケースが多いため、J Aが参加し緩衝材になることで、建設的な方向へ誘導する必要がある。
- (5) 親子の意見の補足と折衷案の提案
親子での話し合いに際しては、親子であるからこそ言葉足らずになりがちで、そこから誤解が生じ易い。そのため、J Aでは両者の立場を尊重した意見の補足や折衷案の提案が必要となる。
- (6) 親子の相談役
親子間の話し合いが順調に見えても、不平不満がたまるケースも多い。J Aでは、定期的に行う個別の相談時には親子双方から出される意見要望を受け止め仲介役となる必要がある。

6. 今後の方向性と役割

今後は、青森県内のみならず全国的な新規就農者支援の事例等を踏まえ、必要となる取り組みを検討していく。

具体的には次のとおりJ A、連合会において役割分担しながら同じ目標に向かって進めていく。

- (1) J Aの役割
 - ① J Aは、「親元就農」対策として、正組合員の事業承継を円滑に進めるため、総合的に支援する体制を構築する。特に、「親元就農」を希望する後継者の情報を収集するとともに、事業承継に重要な「親子間の話し合い」等に向けた相談体制を整備する。
 - ② J Aは、「第三者承継」対策として、優良事例を参考に、行政等関係機関と連携し、事業承継を希望する離農予定者および被承継者の情報収集や面談等により対象者を選定し、マッチングを進める。
- (2) 連合会の役割
 - ① 連合会は、「親元就農」対策として、J Aが実施する「親子間の話し合い」に向けた相談体制の整備について支援する。
 - ② 連合会は、「第三者承継」対策として、モデルJ Aによる実証結果を参考に事業承継の体制整備・支援方法を確立するとともに、希望する他J Aに対し横展開をはかる。
 - ③ 連合会は、新規就農者支援を担当するJ A職員の知識向上のため、実務研修会等を開催する。

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

～ J A 内部統制の確立・強化へ向け取り組み～

1. はじめに

いま全国では、コロナ感染の急拡大にともない出されていた緊急事態宣言が解除されたところであるが、J A グループでは、今まさに“コンプライアンス”非常事態宣言の発令待ったなしの状態にある。理由は、平成16年以来下がってきていた不祥事の発生件数が上昇傾向を見せているからである。

2. 内部統制確立強化の必要性

まず現状の確認をしてみると、平成16年度から27年度にかけては一貫して不祥事の報告件数が減少したものの、それ以降は下げ止まりの状態が続いていたが、令和元年度から明らかな上昇に転じ2年度も同水準となっている。不祥事の内容的には「現金の着服」＝業務上横領の事案が多く、このままではJ A の社会的信頼性へのダメージは計り知れないものがある。

本会が昨年、現金精査にかかる「クロスチェック」の必要性を周知し実施を進めてきたのは、背景としてそういう状況があり、内部統制の確立・強化の必要性を認識していたからである。

3. 改めてコンプライアンスとは？

ここで改めてコンプライアンスとはなにかを確認したい。まず「コンプライアンス」という言葉からは、誰もが「法令や社会的規範の遵守」を思い浮かべることと思うが、コンプライアンスという言葉自体には「～に従う」という意味しかなく、特定の～に従うということの意味していない。逆に言うと、法令や社会的規範の遵守もその一部に含んだずっと広範な意味合いを持つ言葉だといえる。

それを踏まえてコンプライアンスの取り組みを考えると、違法行為等を起こさないという「結果」はもちろん大事だが、この違法行為を起こさないという結果をもたらす意思決定や業務行動にかかるプロセスの適正性が重視されることになる。これは言うなれば風通しの良い職場づくり、意見を言い合える環境の構築といったことが重要だということでもある。

コンプライアンス違反は、故意であろうと不注意から起きたことであろうと、J A の信頼を損ねる不祥事事件に発展して、その当事者の人生を台無しにするだけでなく、家族や同僚の人生にまで影響を与える恐れがある。「J A 綱領」をいま一度読み返し、J A の基本的使命や社会的責任、J A 職員の果たすべき役割というものを再確認・再認識していただきたい。

4. 本県での内部統制確立強化に向けた取り組み

本県では9月に入ってから、役員向けあるいは職員向けのコンプライアンス研修会の開催が本格化している。9月10日には東京国際コンサルティング株式会社の青木茂幸氏を講師に「コンプライアンスの真の意味とそれを浸透させる有効な手法」をテーマとした「J A 役員コンプライアンス研修会」を開催した。同研修は、昨年はコロナ禍による延期の後に中止となった経緯があり、今年はWEB形式を主体にした安全安心な受講方法を模索・調整し開催実現に至った。また、各J A からの依頼による職員向けのコンプライアンス研修も、「受講者も講師も密状態にならない」WEB研修方式をはじめて用意し提案しているところである。WEB研修は、複数J A の職員が同時に受講でき、複数日・複数会場の受講設定など自由度が高く、従来より柔軟な受講態勢を提供できる。J A 内でも本支店間の距離・場所にとらわれないWEBを利用した研修や会議、打ち合わせを業務における情報共有はもとよりコンプライアンス意識の共有・醸成に活用をお願いしたい。

5. さいごに

現時点では、本会主催研修会の内容をストリーミング配信することは、システムや設備導入の関係で実現の見通しは立っていない。しかし、緊急性の高い内部統制確立強化に関する情報・知識の周知には、リアルタイムかつ継続的に繰り返し視聴できるWEB配信等は有効である。J A 全中など全国連では、各種研修・会議の開催後にWEB配信するなど、全国での情報の共有・発信を強化しており、全国J A コンプライアンス実践トップセミナーもCisco社の「Webex」を利用し視聴期間を設定したWEB配信による開催となっている。このWEBを利用する流れは、コロナ禍を乗り切ったあとも続くことが予想され、本県においても会議・研修会にWEBを利用する場面が多くなっていることから、本会としては今後も適切な研修環境の提供に向け検討・支援を行っていく。

(中央会 経営対策部)



ポリシーブック研修会

8月20日全青協は、ポリシーブックの作成率の向上と、作成後の見直し、活用をすすめるため、ポリシーブック研修会（WEB）を開催した。全国約150名の盟友とともに青森県農協青年部協議会（県青協）から5 J A・19名が参加した。

ポリシーブックは「J A 青年組織の政策・方針集」で、青年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動を進めていく上での課題や疑問点を整理し、盟友同士で解決策を検討したものをとりまとめている。

研修会では、ポリシーブックを「組織活動の軸にするための」作成方法や活用について説明が行われた。主なポイントは以下のとおり

1. 課題の掘り下げ
組織の中での思いを共有する
2. 解決策のアイデア出し
1. で出された課題に対し、「自助（自分たちでできること）・共助（J A等と一緒に）・公助（行政への要請）」の観点から解決策を協議する
3. ポリシーブックの活用
(1) 活動計画とのリンク（紐づけ）
(2) P D C A サイクルによる進捗管理、絶えずポリシーブック・活動計画の見直し、実行、評価、改善・・・というサイクルを「仕組化」し、継続する

※ 実践には、活動スケジュールにおいて、5 W 1 H を明確にし進めることが求められる。

青森県農協青年部協議会では、ポリシーブックの見直し・活用による課題解決と青年部活動の活性化のため、研修会等を通じ支援して行くこととしている。



S N S を活用した情報発信

青年部の活動理解による組織活動強化を図るため、SNSを活用した情報発信に取組み、県青協のSNSアカウントを立ち上げ7月より運用を開始した。

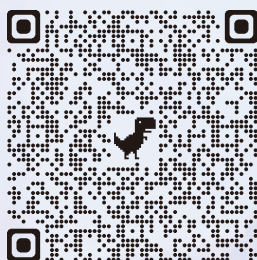
Instagram（インスタグラム）とFacebook（フェイスブック）に投稿を行い、県役員を中心に日頃の作業の様子や、青年部の取組みを発信している。

今後の取組みとしては、各 J A 青年部の取組み紹介や盟友の活躍を中心に投稿し、若手農業者の営農や地域にかける想いを伝えることで、国産農産物の魅力や食の大切さについて消費者の理解促進につなげていく。

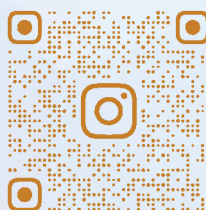
インスタグラムの投稿



下記QRコードからフォローをお願いします。



Facebook QRコード



AOSEINEN

Instagram QRコード



輝き

ＪＡ青森中央会
農業対策部 組織農政課
おばら ふたば
小原 双葉 さん

●プロフィール

2021年4月から勤務 八戸市出身 23歳

— 働くきっかけは？ —

ＪＡが掲げる目的に共感したため。

— 業務内容を教えて下さい。 —

県生活指導員連絡協議会の事務局、全ＪＡ調査を主に担当し、副担当として、県女性協や食農教育活動等に携わっています。

— 働いた感想は？ —

様々な業務があるので、日々頑張っていきたいと思います。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

相手の気持ちになって考えること、感謝の気持ちを忘れないこと。

— 特技・趣味は？ —

華道・絵を描くこと・筋トレ

— あなたが自慢できることは？ —

フルートが吹けます。

— 将来の夢は？ —

コロナが落ち着いたら、色々な国を旅行したいです。
動物が好きなので、将来はペットを飼いたいです。

食と農の大切さを子供たちへ



アビオスを収穫する児童ら（青森県七戸町で）



ＪＡゆうき青森では地域小学校と連携し、食農教育活動に力を入れている。農業が盛んな地域ならではの取り組みだ。地域特産物や地域農業への理解醸成はもちろん、農業や農産物を絶やさずに次世代の子どもたちへ繋ぐ活動の一環として毎年実施。

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の「２．飢餓をゼロに」と「４．質の高い教育をみんなに」にも繋がっている。

５月にはアビオスを生産者指導のもと、七戸町の小学校児童らが植付けから支柱さし、ネット張りまでを行い、１１月に収穫。

収穫したアビオスを使用し、女性部とオリジナルレシピの料理を作る。８月は青年部が主体となり、播種機を使って葉つきこかぶを野辺地町の小学校児童らとともに植付ける。収穫したこかぶは地域住民へ児童らが販売。大切に育てた農産物を収穫

する喜びを体験する他、生産者の圃場（ほじょう）やＪＡ施設の見学をする。

同ＪＡ野菜振興会キャベツ部門では、１２月に、管内の農家が生産したキャベツを学校給食へ寄付する。このように、子どもたちが実際の生産現場で生産者やＪＡ職員と触れ合いながら、農業への理解を深めている。

コロナ禍で活動は限られるが、ＪＡでは今後も食農教育活動を通じ、食と農の大切さを次世代の子供たちへ積極的に伝えていく。

ＪＡ人の動き

○ＪＡ津軽みらい（令和３年９月２４日付）

代表理事組合長	工 藤 俊 博（新）	代表理事常務（営農購買担当）	加 藤 和 夫（新）
代表理事専務（総務管理担当）	成 田 義 仁（新）	代表監事	津 川 博 征（新）
代表理事常務（信用担当）	田 中 究 明（再）	常勤監事（員外監事）	一 戸 誠（新）
代表理事常務（販売担当）	村 上 勝 憲（再）		

仲間

J A相馬村



J A相馬村青年部



もち米刈取り後の部員ら（青森県弘前市で）

J A相馬村青年部では、毎年もち米の栽培を行っており、定番の事業となっている。秋に収穫したもち米は当J A直売所や予約での販売をし、続々と売れていく人気商品になっている。

一昨年までは、苗から購入して栽培していたが、昨年から播種するところから始めた。昨年に続き今年も順調に生育し、今後収穫を行い、精米し11月下旬頃に店頭に並ぶ予定だ。

同青年部の宮川貴彦部長は「途中、稲が一部で倒れてしまうこともあったが、収穫時にはしっかりと黄金色になり、今年産の出来高に注目したい。コロナに負けないように部員と力を合わせて、地域を盛り上げていきたい」と話した。

（日本農業新聞・青森県版9月9日掲載）

後編 記集

21年県産米の概算金が決まったが、下げ幅が過去最大となり、米農家にとっては、厳しい出来秋を迎えることとなった。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う外食控えで業務用米の需要が低迷したことが大きな要因で本県に限らず全国的にも軒並み影響を受けることとなった。

その後、県内の作付面積の67%が減収を穴埋めする国のナラシ対策（収入減少影響緩和交付金）が農業経営収入保険に加入しており、加入している生産者の減収は1割程度に抑えられる見込みとの試算結果が報道され、少し安堵した。しかし、未加入者にとっては、大きな減収が避けられない

状況は変わらないため、市町村単位での支援策に期待したい。

我が家も子供達が独立し、今は妻と2人だけの献立を毎日の日課としており主食は勿論、お米であるが1日の消費量としては2～3合程度が限界で10キロの米を消費するには約1カ月もかかっている。2人の子供達には、定期的に宅配便で県産米を送っており、米の消費拡大に努めている。

子供達も「青森のお米は食べ慣れているからとても安心。特に炊き立てだと値段の高い他県のお米と比べても変わらずとてもおいしい」と言ってくれるので、親としては、送りがいを感じており、今後も続けていきたい。（公）



ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧ください。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧ください。
- J A全農あもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組を紹介しております。

伝えたい人に、 伝える、伝わる。

JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。



広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1～6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30～60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

【Eメール】 koukoku@agrinfo.co.jp 【TEL】 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

わたしのミカタ

"Ienohikari"

家の光

コロナで外出ができないので『家の光』をしっかり読んでいます。知らなかったことがいっぱいです

毎号興味のある特集が掲載され、読むほどに新発見があり楽しく学べます

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

本誌記事と関連した動画をYouTubeで配信。5月号からは読者限定動画も! 誌面の2次元コードを読み取ってご覧ください。

家の光	定価(税込)
普通月号	629円
付録月号(1・4・5・7・9月号)	922円
付録月号(家計簿付き12月号)	1,027円



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし

Nツアー新型コロナウイルス感染予防商品のご案内

**Nツアー
旅行券利用
可能です!**

新型コロナウイルス感染対策商品です。日々の備えにぜひご検討、ご利用ください。
掲載商品は一部です。こちらに無い商品でも、お問い合わせくださいませ。

1) 非接触式検知器サーモマネージャーEX

非接触でスピーディーに体表面温度を検知！
人が集まったり行き来する場所で使用されています。
設置工事必要なし、かんたん組立。

★この他多種取り揃えあります！

価 格：80,000円
(税込88,000円)

ロット：1 個単位から可
送料無料

備 考：37.5℃以上の検知で高温異常を
色とアラームでお知らせ。
8インチ大型液晶
測定誤差は±0.3℃



2) 日本製CO2濃度測定器

贈品(換気)

商品のご案内<日本製CO2濃度測定器 HCOM-CNJP001>

日本製 CO2濃度測定器 HCOM-CNJP001

換気のタイミングを見える化！！
まん延防止等重点措置を対策して
安心な環境を。



販売価格	単価6,818円(税込7,500円) ロット272,720円(税込300,000円)
商品名	CO2濃度測定器 HCOM-CNJP001
製品サイズ	幅67×高さ98×奥行32mm
表示	二酸化炭素濃度・全揮発性有機化合物・ ホルムアルデヒド・湿度・温度
表示モード	スマートカラースクリーン
警報方式	色と音のデュアルリマインダー
動作電圧	DC5V
バッテリー容量	1200mAh
ロット	40個単位から
送料	1,100円(税込)(但し、北海道・沖縄・離島は除く)
備考	納期につきましては、都度ご確認ください。

★詳しい案内書をご用意しております。

★Nツアーでは“ノベルティグッズ”の多数取扱もございます。貯金キャンペーンや各種友の会・部会の記念品にぜひご用命ください。

お申込み・
お問い合わせは



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 農協観光 青森支店
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
総合旅行業務取扱管理者：伊藤 亨・田川ますみ
TEL 017-729-8800
FAX 017-729-8803

お申込み・
お問い合わせは

株式会社農協観光代理業
青森県知事登録旅行業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433
総合旅行業務取扱管理者／八重樫泰浩

作品紹介

●令和2年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門第二部）

「野球メシ」

八戸市立吹上小学校

5年

齋藤

蓮



■優秀賞（図画部門第二部）

「おいしい米の収穫だ」

十和田市立高清水小学校

6年

澤田

凜